

# 年間指導計画例

## 目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

学期	題材	目標と指導内容	歌唱	器楽	創作	鑑賞	評価の観点				
							音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	
一学期(4~7月)	独唱の世界	<p>(目標) 詩の描く世界や楽曲の構造及び音楽の描き出す全体の雰囲気などを理解し、表現意図をもって歌唱したり、社会や生活と音楽のかかわりを理解しながら鑑賞する。</p> <p>(指導内容) ・詩の内容や言葉のリズム・抑揚と音楽との関係を理解する ・楽曲の構造や構成を理解する ・楽曲の表現にふさわしい発声方法や、表現を工夫する ・生活や、社会と音楽とのかかわりを理解する</p>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や楽曲の背景に関心をもち、曲の良さを味わっている。</li> <li>楽曲や詩の良さを生かすための、発声や様々な表現を工夫した表現に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の全体像を、歌詞の内容や楽曲の背景、音楽を形づくる要素や構造等とかがわからせて総合的に理解し、個性を生かした創造的な表現を目指して工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解した音楽の全体像や楽曲の良さを表現するための技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や社会における音楽の役割を理解し、楽曲や演奏の表現内容を適切に解釈している。</li> </ul>	
	芸術と音楽	<p>(目標) 音楽の特徴を理解し、音楽と他の芸術や文化とのかかわりについて理解して鑑賞する。</p> <p>(指導内容) ・様々な演奏形態による芸術音楽の鑑賞</p>				○					<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の構造上の特徴と、音楽の美しさとの関係や、他の芸術や文化とのかかわりを理解し、楽曲や演奏を解釈したり批評することができる。</li> </ul>
	自由研究	<p>(目標) 音楽の諸活動を通して、音楽について総合的に理解する。</p> <p>(指導内容) 以下の中から自由に選択して活動し、その成果を発表し合い、相互に批評しあう。 ・独唱 ・独奏 ・作品発表 ・研究発表</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって意欲的に歌唱したり演奏したりしている。</li> <li>様々な様式や演奏形態の特徴を理解し、自分の個性を生かした創作をしようとしている。</li> <li>音楽の総合的な理解につながるような研究を意欲的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の表現内容を総合的に理解し、創造的な表現につながるよう工夫している。</li> <li>様々な様式や演奏形態の特徴を生かし、個性を生かした表現になるよう工夫して創作している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を総合的に理解した上で、個性を生かした表現をするための技能を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の構造上の特徴と、音楽の美しさとの関係や、他の芸術や文化とのかかわりを理解し、発表者の表現意図や表現内容を適切に解釈している。</li> </ul>	
二・三学期(9~3月)	少人数合唱の世界	<p>(目標) 少人数の合唱の特徴を理解し、その効果を生かした演奏を目指す。</p> <p>(指導内容) ・正確な音程と音色・音量のバランスの取れた透明な合唱 ・歌詞の内容と音楽の構造とのかかわりを理解して合唱する</p>		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞の内容や楽曲の背景に関心をもち、曲の良さを味わっている。</li> <li>少人数という表現形態の特徴やその効果を生かすために主体的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の全体像を、歌詞の内容や楽曲の背景、音楽を形づくる要素や構造等とかがわからせて総合的に理解し、個性を生かした創造的な表現を目指して工夫している。</li> <li>少人数の合唱という演奏形態の特徴を理解し、それを効果的に生かす工夫をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解した音楽の全体像や楽曲の良さを表現するための技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の構造上の特徴と、音楽の美しさとの関係や、他の芸術や文化とのかかわりを理解し、楽曲や演奏を解釈したり批評することができる。</li> </ul>	
	楽しいアンサンブル	<p>(目標) 少人数のアンサンブルという特徴を理解し、その効果を生かした演奏を目指す。</p> <p>(指導内容) ・正確なリズム、音量、テンポ、パートのバランスをよく理解したアンサンブル ・音楽の構造とその表現内容をよく理解した表現を工夫する</p>		○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の表現内容をよく理解し、効果的な演奏をしようとする意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の表現内容をよく理解し、演奏形態の効果を生かすための表現を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解した音楽の全体像や楽曲の良さを表現するための技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の構造上の特徴と、音楽の美しさとの関係や、他の芸術や文化とのかかわりを理解し、楽曲や演奏を解釈したり批評することができる。</li> </ul>	

学期	題材	目標と指導内容	歌唱	器楽	創作	鑑賞	評価の観点			
							音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
二・三学期(9～3月)	グループによる自由発表	<p>(目標) 音楽の諸活動を通して、音楽について総合的に理解する。</p> <p>(指導内容) ・自由に組んだグループで、アンサンブル、創作、自由研究等を行い相互に発表し、批評しあう</p>	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって意欲的に歌唱したり演奏したりしている。</li> <li>・様々な様式や演奏形態の特徴を理解し、自分の個性を生かした創作をしようとしている。</li> <li>・音楽の総合的な理解につながるような研究を意欲的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲の表現内容を総合的に理解し、創造的な表現につながるよう工夫している。</li> <li>・様々な様式や演奏形態の特徴を生かし、個性を生かした表現になるよう工夫して創作している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を総合的に理解した上で、個性を生かした表現をするための技能を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の構造上の特徴と、音楽の美しさとの関係や、他の芸術や文化とのかかわりを理解し、発表者の表現意図や表現内容を適切に解釈している。</li> </ul>

## ■ 学習指導計画の立て方

### ▶ 「音楽Ⅲ」の学習指導計画

音楽Ⅲは、12年間に及ぶ学校音楽教育の最終段階に位置する。音楽Ⅰや音楽Ⅱで学習した内容を踏まえ、生徒の音楽的な能力を高めるとともに、生徒それぞれの個性や興味・関心を生かした主体的かつ創造的な学習活動を展開していくことが重要であり、この経験を支えとして、生徒それぞれがさらに生涯学習へとつなげていくための大切な科目である。音楽Ⅲを履修する生徒はⅠやⅡの科目以上に「音楽」に対する興味・関心が強いことが多い。また進路に音楽が関係している生徒がいることも考えられる。こうした生徒の学習意欲に十分応えられるように、内容をよく精選し学習指導計画の作成にあたることが大切である。

### ▶ 学習指導計画の作成

学習指導要領を読むと、音楽Ⅲの「内容の取扱い」の中に「生徒の特性、地域や学校の実態を考慮して「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」のうち「一

つ以上を選択して扱うことができる」とある。つまり音楽Ⅲは弾力性のある科目であり、実際の学習内容については個々の教師の判断に任されている部分が多いと考えられる。それだけに多種多様な学習内容や学習形態が生まれる可能性がある。先にも述べたように、生徒の能力や実態に即した学習内容を目指すことが大切となってくる。ただし、その際にも学習内容全体における計画性や音楽Ⅰ、Ⅱとの系統性などが曖昧にならないように、計画立案にあたっては一貫した理念と系統性に十分配慮する必要がある。

#### 1. 目標の設定

具体的な指導計画の作成にあたっては、学習指導要領に示された音楽Ⅲの指導目標を基盤に置きながら年間指導目標を、さらに領域別目標、題材・主題別目標を設定する。各学校の教育目標を念頭に置くことはもちろん、教育課程における音楽Ⅲの位置づけや性格を正しく理解することが大切である。多くの場合音楽Ⅲは選択履修科目としてお

かれているが、その場合講座開設に際しての講座内容や生徒の志望動機が目標設定の大きな要素の一つになるだろう。

#### 2. 指導内容の取扱い

学習指導要領にあるように音楽Ⅲは、指導内容について柔軟な取扱いが可能である。以下にこの教科書を効果的に用いることができる領域別の可能性をまとめてみよう。

- A 「表現」を中心とした学習指導
- B 「鑑賞」を中心とした学習指導
- C 総合的な内容による学習指導
- D 独自の内容による学習指導

このうちAに関しては更に「歌唱」、「器楽」、「創作」それぞれを中心としたものに分けることも可能である。またDに関しては、生徒の進路などを考慮に入れ、専門科目「音楽」の内容の一部を含めることも考えられる。

#### 3. 題材の設定

指導者の理念や指導方針に基づき、先に述べたような様々な状況を踏まえながら題材を構成する必要がある。音楽Ⅰ及びⅡのところでも述べたように、題材構成は「楽曲によるもの」と「主題によるもの」の二つに大別できる。上記のA,Bの場合は「楽曲による」題材によって、個々の作品を深く研究し、音楽を理解させていくことが考えられるし、CまたはDのような場合は、「主題による」題材によって、系統性・発展性のある学習内容の展開を求めることが可能になるだろう。

#### 4. 学習形態

音楽Ⅲは生徒の意欲的な姿勢に支えられた、より高度で充実した学習活動を展開するために、生徒の自主性を生かした指導が強く求められる。そのために一斉指導以外にも、グループ学習や個別学習など学習形態にも一層の工夫が求められる。